



2009新潟県大観光交流年に向け、熱高まる

平成19年10月、新潟市の朱鷺メッセで「2009新潟県大観光交流年推進協議会」の設立総会が開かれました。2009年（平成21年）にはJRとのタイアップによる新潟デスティネーションキャンペーン、新潟県ゆかりの武将直江兼続を主人公とするNHK大河ドラマ「天地人」の放映、加えてトキめき新潟国体の開催という三大イベントが予定されています。

大イベントの好機を生かす

三大イベントの中身は次のとおりです。

（新潟デスティネーションキャンペーン）

デスティネーションキャンペーンはJRグループが地元と一体となって進める広域的な観光宣伝事業で、新潟県では過去に6回実施されています。その効果は大きく、直近の「ちばDC」（平成19年2月～4月）での観光入込客数が前年比で223万人、8・0%増となり、「仙台・宮城DC」プレキャンペーン（平成19年10月～12月）でも7・3%増となっています。新潟県ではこうした地域の実績をふまえて、新たに平成21年の10月～12月に実施されるこの新潟DCを大いに盛り上げようと考えています。

（NHK大河ドラマ「天地人」）

NHK大河ドラマの影響も大きなものがあります。昨年のドラマ「風林火山」では、例えば武田神社など信玄ゆかりの地の観光客数が例年の2倍前後になったといわれます。ドラマ「天地人」の主人公となる直江兼続は新潟県南魚沼市の生まれ。上杉景勝の家臣でありながら、豊臣秀吉、徳川家康を魅了し、また怖れられた人物といわれます。上杉謙信を師と仰ぎ、兜に「愛」という文字を大きく掲げた兼続は、その波乱の生涯を通じて義の精神と民・故郷への愛を貫きました。主人公に扮するのは俳優の妻夫木聡。年配層も当然ながら、若い世代の誘客にもつながると新潟県では期待しています。

（トキめき新潟国体）

そして三つ目は新潟国体です。トキめき新潟国体は、平成21年の2月に冬

季大会スキー競技会が湯沢町を主会場に開かれます。9月からは新潟市をメイン会場に本国体が開催されます。

新潟県での開催は45年ぶりのことです。大会スローガンは、「トキはなて 君の力を 大空へ」

という伸びやかなものであり、参加予定人数は2万5千余。生産誘発効果も最近の他県の例で1・6前後となり、雇用誘発効果も大いに期待されているところです。

これらの大イベントの好機を生かさない手はありません。まして3年前の中越大地震、昨夏の中越沖地震と重なり観光客の低迷が続くなかで、何としても新潟の観光復興を果たさなければならぬとの決意が、昨秋の2009新潟県大観光交流年推進協議会設立に際して示されたといえます。



佐渡おけさ（相川町）

2009新潟県大観光交流年推進協議会の設立の意図

協議会の設立趣意書には新潟県の熱意が込められ、また大いに伝わってきます。その中では次のように訴えています。

「2004年10月、本県は中越大地震の発生により未曾有の被害を受け、本



春の妙高山（妙高市）

県観光も大きな痛手を被りました。それから3年、全国の皆さまからの多大なご支援に支えていただきながら、官民が一体となって懸命に復旧・復興に取り組んでまいりました。

しかしながら、中越大地震からの傷も癒えない中で、2007年7月、本県は再び中越沖地震に見舞われ、観光復興にとっても大きな打撃となりましたが、これに負けることなく、全県が一丸となってこれを乗り越えていかなくてはなりません。

そうした中、中越震災から5年という節目の年である2009年に、J

Rグループによるデスティネーションキャンペーンの開催が決まり、また本県にゆかりの深い戦国の英雄、直江兼続公を描いたNHK大河ドラマ「天地人」の放映が決定したところです。

これらに加え、トキめき新潟国体開催なども含め、本県に全国の注目を集めることのできるこの年は、これまでの取組を踏まえつつ、力強く復興した姿とともに本県の新たな魅力を発信し、より多くの方々の流れを本県に向かわせることのできる絶好の機会であると考えます。

そこで、この機会を最大限に生かしながら、その効果を短期的なものではなく、その後に続くものとしていくため、官民が一体となった体制を構築し、連携強化を図りながら効果的・効率的に取り組むことにより、さらなる交流人口の拡大につなげてまいります。

そのため県、市町村、関係団体・企業が協働して、「2009新潟県大観光交流年推進協議会」を新たに設立し、これらの取り組みを強力に推進していくことといたしました。」

新潟県のこれまでの取り組み

新潟県の観光客数を見てみると、10年前には8000万人を超える客数を記録していましたが、やがて微減の傾



萬代橋（新潟市）

向が続きます。平成16年（2004年）度には中越大地震による風評影響の影響などにより、約6600万人になりました。

そこで新潟県では観光の低迷状況を踏まえ、県の基本計画である「夢おこし政策プラン」の中で、観光立県推進のため、次の政策目標を掲げました。

- ・観光入込客数を、平成20年度までに中越大地震前の水準に回復させる
 - ・大規模コンベンションの年間開催件数を平成20年までに270件に増加させる
- というものです。そしてこの政策目標

を具体化するため、以下の取り組みの視点を示しています。

① 観光の新展開

・シアトル、サンフランシスコ、ロサンゼルスがあるアメリカ西海岸（ウエスト・コースト）になぞらえ、日本のウエスト・コーストとして、健康で緑豊かで食がおいしく、是非訪れてみたいという新潟のイメージ戦略を進める。

・北東アジア交流圏の表玄関という立地を生かし、対岸諸国の日本（日本らしさ）への関心の高まりを踏まえた外国人観光客をターゲットにとらえた「国際観光の新展開」を進める。

・全国に誇れる食、自然、イベントなど、新しい観光資源の再発見・開発や地域の特徴を生かしたまちづくり、受け入れ体制の整備を進めるとともに、他県との連携による「広域観光」に取り組む交流人口の拡大を図る。また、その際は首都圏からのみでなく、新潟空港との航空路線のある九州や関西などからの誘客にも力を入れていく。

・健康志向の高まりを踏まえた「健康サービス産業」との連携による「観光の新展開」を促す。

② コンベンション支援事業の創造
・コンベンションの本県開催に当たっては、県内への十分な経済効果を上



湯沢パークスキー場（湯沢町）

げる上で、コンベンション（会議、大会、博覧会などの催し物）等を専門的かつ総合的に組織・企画・運営し、そのサービスを提供する「コンベンション開催支援サービス産業」が重要であり、その早急な創出を進める。

この計画に基づき新潟県では、2008年度に観光客数を中越大地震前の水準（平成15年度7356万7千人）に回復させることを目標として設定しました。観光復興をまさに軌道に乗せようとしたのです。その直後に発生したのが中越沖地震でした。きわめて不本意な形で出鼻をくじかれた新潟

県ですが、それにひるむことなく、震災復旧のめどがついた昨年の秋口に、改めて観光振興によるさらなる交流人口の拡大に取り組み始めました。それがこの「2009新潟県大観光交流年」事業なのです。

現在展開中の具体的な取り組み

2009年といえばもう目と鼻の先のことですが、それだけにこの推進協議会立ち上げの後、新潟県では具体的な取り組みが次々と着手されています。

（推進委員会の整備）

まず推進協議会には、「新潟DC推進委員会」と「天地人推進委員会」の二つが発足しました。協議会への参加団体数は167団体（平成20年3月現在）に上るなど参加の輪が広がっています。推進協議会の会長には県の観光協会会長が就任し、官民一体となった活動が始まっています。

（シンボルマークなどの策定）

新潟DCについては、この3月にキャッチフレーズとシンボルマークが決まりました。「食」の魅力をメインテーマとするDCだけに、何かひとつでは伝えきれない「新潟の食」の豊かさを、「食」を伝える自然や歴史、文化、人などにつながるものであるという想

いも込めて制作されたものとなっています。「ぎっしり」という言葉が、まさにその想いを込めているのです。

うまさぎっしり新潟



（観光キャンペーンの開催）

また新潟県では、四季折々の魅力的な情報を県内外へ効果的に発信するため、季節ごとの観光キャンペーン「にいがた花物語」「にいがた花火王国」「にいがた大収穫祭」「にいがたあったかSNOW王国」を展開しています。キャンペーンでは、雑誌やテレビ、ラジオ等の媒体を活用した情報発信のほか、新潟の四季の魅力を感じることのできるイベント等を開催し、誘客のための取り組みを行っているところです。

（新たに「観光局」を設置）

そして観光振興体制を強化するため、県の推進組織も強化が図られています。この4月から新組織として「観

光局」が産業労働観光部内に設置されました。「観光局」は、大観光交流年に向けた取り組みの推進や外国人誘客の誘致促進を活動を担う観光振興課と、交流人口拡大に向けた戦略形成やコンベンション誘致を担当する交流企画課の2課制で構成されています。総人員は23人と拡充され、初代局長には、国土交通省から出向の坂巻健太氏が就任しました。

このように新潟県では、震災を乗り越え、観光振興の飛躍に向けての準備が着々と進められているのです。

（編集部 本シリーズ（総括）嶋津隆文）



村上市・イヨボヤ会館